

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 R8年3月16日			
きらり中庄 (ひかり)					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	5	活動やスケジュールに合わせてマットを増やしたり剥いだりしている。 パーティションなどで部屋を区切り注意散漫にならないようにする。 ひかりの部屋は人数に対して狭いが、併設の事業所のスペースを借りて運営できている。	せめて療育場と食事場が別室だといいなと思う。 療育室以外にも敷地内の各所を利用して過ごしているが、カームダウンや午睡など、分かれて過ごすことが出来ればよりよい支援が出来ると思う。 排泄用、午睡用のスペースを確保したい。 午睡部屋もしくは食事をとる別の部屋が欲しい。寝ないお子さんもおられ、寝るお子さんは物音や職員の声で眠れないことがある。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		看護師が必ず1人にならないようにしている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	食事場所やプレイエリアが一つの部屋で完結しているため、メリハリがつきにくいところもあるが、ロールカーテンがついたので空間を区切ることはできている。 スロープなど取り入れたりしている。	収納スペースが狭く頭上に物が多くある。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	2	役割分担がある。	食事中にジョイントマットを敷いたり外したりすると大量の埃が舞うので改善したい。 排泄交換の場所を確保できると良い。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	4	パーティションで仕切るなどして空間を分けている。	分散できる部屋がない。 個別の環境がないので、パーティションをしているが注意散漫になりやすい
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	2		情報の共有がしにくい。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		懇談などで日頃から保護者と情報共有している。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	上司がすぐに聞いてくれて、改善してくれる。 意見を出しやすい人間関係である	毎年アンケートがあるが何も変わっていない。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	1		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	定期的に研修あり。	今年度、研修に参加出来ていない。
11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		毎日療育を振り返っている。ケアコラボで計画を公表している。 職員間でよく話し合っている		

適切な支援の提供	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		懇談や送迎時の情報共有、ケアコラボで伝達している。 詳しい個別プランになっているので、知識が不十分でも取り組みやすい。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		個別支援会議を行っている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		朝、プランを共有している。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2	プランの評価の時にアセスメント実施している。	職員の経験による勘や主観によるものがある。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		プランに記載されている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	1	活動の振り返りなど行っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		利用児さんに合わせて考えている。		
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		活動と個別の支援は別で行っている。 それぞれの利用児に合わせて、集団で実施したら、個別に活動を実施している。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		カバー力のある職員さんがそれぞれ考えてくれている。	力量な個々の意識の違いによりプランへの取り組みの偏りもあったり、誰がするか決まっていなくて仕事を気づく人がするようになっていて仕事量の違いが多い。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		毎日振り返る。	振り返りでプランについて改善点や支援方法について話し合うが、職員によって改善がみられないことがある。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		保護者さんから得た情報などは記録に残して職員間で共有している	今年度はより意識して行なっているが、難しい。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		定期的実施している。 定期的に見直し修正をしている。		
	関係機関や	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		よく理解した職員が必ず参加している	
		25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		定期的に他事業所との情報共有して、支援に繋げている。	
		26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9			
		27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9			
		28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				

保護者との連携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	3		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	2		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		送迎時などで情報共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		茶話会など開催している。		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		懇談など。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	2	マロンクラブを開催している	今年度はきょうだい同士での関わりの機会がなかった。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	1		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		Instagramに記事を挙げている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	1	個人名のある書類は必ずシュレッダーへ。	
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9				
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	2	事業所単体で地域住民を招待することは難しいが、敷地内での行事の案内を配布するなどしている。		
非常	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9			
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		毎月避難訓練など実施している。	非常時の持ち出しについて見直しが必要。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		服薬書を提出してもらっている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9			

時 等 の 対 応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	1		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9		同意書で了承してもらっている。	